

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所がめざすサービスとしての理念をあげている。「愛情、やさしさ、尊重」である。	○	地域密着型サービスの役割を理解し、地域や利用者のニーズに合った理念をつくりあげていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、常に目につく場所に掲示しており、朝礼時に、職員が理念を復唱している。ミーティングや申し送りの際に、具体的な話し合いを行い、職員全員が理念を共有できるように取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族の皆さんには、ホーム便りを活用したり、訪問時に口答で伝え理解を得よう努力している。地域の人達には、運営推進会議や地域の催し時を通じて説明しているが十分ではない。	○	今後も地域の催し物等に積極的に出かけるよう心がけ、理念の浸透を図っていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	オリーブ苑で世話をしている愛犬の散歩時や玄関の水やり時に近隣の方と挨拶を交わし、交流を図るように努力している。	○	気軽に立ち寄っていただけるよう、今後も色々と考えていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭出展や見学、催し物、カラオケ大会などに利用者と職員が積極的に参加している。地区の民生委員によるコーラスボランティアや朗読ボランティアが毎月来られ、交流を深めている。	○	今後も地域の行事にできる限り参加し、交流を深めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	文化祭に向けての作品づくりや参加、また、カラオケ大会などへの参加を行い、グループホームでの生活を理解していただけるよう努力している。	○	地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合いを行い、認知症についての相談があれば力になりたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価および外部評価を実施する意義を理解している。評価結果後、ミーティングを行い改善点を具体的に取り上げ改善できる方向に取り組んでいる。	○	評価を活かして職員の質の向上に努めていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では外部評価の結果などを報告し、説明している。率直な意見もいただき、会を重ねる度に熱心に聞いてもらったり意見を出して下さる。会議での意見を基に質の向上のための勉強会も行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在は、運営推進会議以外での交流は図れていない。	○	事業所の考え方、運営、現場の事情を積極的に伝える機会づくりを行っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員の中には十分理解していない者もいるので、勉強会で地域福祉権利擁護や成年後見制度について学んでいきたい。	○	資料を基に勉強会を開き知識を身につけ、必要と考えられる人には活用できるように支援していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで高齢者虐待について検討する機会を設けている。虐待の知識を持ち、常に虐待の事実がないか把握したり、顔色や様子から状態観察を行っている。職員がストレスを溜めないように話し合う努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の意見をお聞きして、十分な説明を行い納得を得て、手続きをしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見を日々の会話の中で聞いたり、利用者が発した小さなことを見逃さずに記録し、今後の対応や改善点を職員全員で話し合いをしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行している「オリーブだより」で利用者の暮らしぶりの写真や健康状態、職員の異動など必要な事項を報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に苦情がないかお聞きしたり、玄関先に「ご意見箱」を設置している。また、定期的にアンケート用紙を利用し、意見などを言いやすい環境をつくっている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は 定期的、緊急時などミーティングを開き意見交換の場を設けている。また、1か月に一回幹部の定例会議において管理者が要望や提案を言える機会がある。たびたび運営者が訪問し、職員の意見を聞く機会がある。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者さんの緊急時、体調変化などには、臨機応変に対応できる体制を取っている。また職員に同意してもらっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を崩さないように職員の異動は最小限に抑えている。利用者の不安が生じないように、できる限り安心して支援を受けられるよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修案内の資料を職員全員が把握できるようにし、できる限り多く研修を受ける機会を設けている。運営者は、常に研修への参加を促している。	○	研修への参加は、知識を得るためと人脈を得るために今後も機会を増やしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や相互評価研修などで同業者と交流する機会があり、良いと思うことを持ち帰り、サービスの中に取り入れたりしてサービスの向上を図っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、母体、関連施設との交流会、親睦会の機会を保持し、各職種の人達との交流ができるように配慮している。また、運営者は度々グループホームに立ち寄り、利用者、職員の様子を見に来られている。ホーム全体のことを気にかけて下さっている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者は、順次、研修会に参加を促し、個々の勤務実績に応じた指導を行い、働く意欲や向上心につながるよう努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の話をよく聞き、柔軟に受け止める努力をしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	訪問時、家族が困っていること、不安なことを受け止める努力をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々々の状態把握に努めて、本人、家族の意向を大切にし、できる限り対応できるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始後、家族の面会の回数を調整したり、自宅への外出や外泊を取り入れ、利用者の状況を把握しながら安心して生活できるよう工夫して支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族的な雰囲気の中で昔ながらのしきたりや行事などを教えていただいたり、一緒にちらし寿司を作ったり、野菜を育てたりして、支えあう関係を築いている。	○	今後も一人ひとりの個性を重視し、役割を持って生き生きと過ごしていただけるように支援していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会など様々な場面において話し合いの場を持っている。近況報告をして今後の対応について、話し合うなどして支えあう関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族との関係を理解し、より良い関係が保てるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方や知人が来られた時は、馴染みの人との時間を大切にできるよう、自室にてコーヒーなどでおもてなしをしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を職員が把握しており、食事の座席を状況に合わせて替えたり、トラブルを回避するため、職員がさりげなく間に入ったりして支援している。	○	できることを認め合えるよう、職員が間に入り、良い関わりができるように支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所され他施設に入所された利用者さんの様子をうかがったり、医療に切り替わった場合は病院へ見舞いに行ったりしている。家族には、いつでも相談や支援に応じることを伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で発する言葉から何を望んでいるのか、希望することはなにかを汲み取るよう努力している。	○	今後も希望、要望を日常生活の中で把握していくように努力していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活シートにより、生活暦や既往歴は、職員全員が把握できるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の申し送りで、一人ひとりの状況を職員全員が、確実に把握するように努めている。	○	利用者の状態把握、本人のできる力、わかる力を暮らしの中で発見していきたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向を聞き、家族の希望、要望を聞いている。本人の状況を十分にアセスメントした上で職員が意見交換し、介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	設定された期間ごと、あるいは本人、家族の要望や変化に応じて見直しを行い、職員、家族と話し合い、課題を出し計画を作成している。	○	その人らしさを大切にして、現場で実践できる介護計画を立てていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づいた事を具体的に記録し、情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々々の本人や家族の要望に沿うように努力している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員によるコーラスボランティア、朗読ボランティアを迎え支援している。消防訓練は入居者も一緒に参加し訓練を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今のところ他のサービスの利用はない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議以外には地域包括支援センターとの連携は十分ではない。	○	地域包括支援センターとの連携がうまく取れるように、努力していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に主治医による往診があり、緊急時には協力病院への受診を支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医による受診で治療方針、薬の処方を行っている。認知症に詳しいので行動障害についての相談やケアについて指導をいただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	受診時には、顔なじみの看護職員が支援を行っている。また、度々看護師さんが来られ、相談できる体制である。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入退院時の情報交換を行っている。入院時には、馴染みの職員が面会に行くなどして、安心できるように努めている。退院時には看護師より状態や内服の説明があり、支障なく生活できるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化する前に、早めに話し合いの場をもつようになっている。必要に応じて主治医も交え方針を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合、主治医と連携し、入居者や家族の意思を尊重し、できる限り支援するよう努力している。職員全員で困難なこと、不安なことなどを話し合い、今後についての対応を考えている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入退所時は十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えのダメージを最小限にしている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合った言葉かけや対応を職員全員で話し合い、心がけている。個人情報について適切な取り扱いをしている。	○	誇りやプライバシーを尊重した言葉かけや対応を心がけていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人に寄り添い、耳を傾け、本人の思いや意向が表せるよう努力している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の意見や決まりを押し付けるのではなく、生活暦などを参考にして、得意なこと、できることで楽しめる環境づくりを行い、一人ひとりのペースを大切に希望に沿えるよう努力している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に美容師が訪問し、希望に応じてカットを行っている。以前から家族がカットを行っている人もおり継続して家族の方をお願いしている。日常的に髪飾りやヘアピンなどでおしゃれを楽しまれている。	○	様々な行事や外出の際には、それぞれ似合った薄化粧をしてあげたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、入居者の自主性を尊重し、職員と協力して行っている。入居者の好みの物や匂いの物を多く取り入れるように心がけている。力量や状況に合わせて楽しめるよう配慮している。	○	食べたい物の希望があれば、献立を変更して希望に沿えるようにしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや飲み物は好みの物を楽しんでいただいている。おやつを居室内に持っている方もいて、衛生面や賞味期限などに気を配っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し定期的な声かけ、誘導を行っている。無理強いをせずに支援している。オムツ対応はできるだけ避け、トイレでの排泄を目指し支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員数や利用者の体調変化により、1人ひとりの希望に応じた支援は難しいが、できるだけ希望にそえるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の一部を除き、お昼寝をされている。日中疲れた時、ソファや畳コーナーで休めるように配慮している。また、夜間安眠できるよう日中活動を増やしている。。不穏状態の場合は、職員が傍について対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味を把握し、個々に応じた役割を探し、楽しみの場が増えるよう努力している。(生花、貼り絵、色塗り、水やりなど)		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動パン屋のパンを選びご自分で支払っていただくなどの支援をしたり、職員と一緒に散歩がてら買い物に行くこともある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	犬の散歩、花の水やり、野菜の収穫をしていただいたり、近隣への散歩を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	天候や体調を考えながら計画を立て、職員が相談しながら実行している。最近では、地域のフェスティバルや紫陽花見学に出かけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の息子さんからのプレゼントが届いた時は、お礼の電話をかけるなど、本人の申し出があれば自ら電話するための支援を行っている。年賀状や暑中見舞いの支援も行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時は、湯茶サービスを行い、居室、思い思いの場所で過ごせるよう、椅子、来客用テーブルなどを準備している。共有スペースでも和やかに過ごせるように心がけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を立ち上げ、具体的な行為についての話し合いを行い、職員全員が理解を深めている。	○	入居者の状態をよく観察し、身体拘束しないケアに取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関を出ると交通量の多い道路に面しているため、安全面を考え施錠している。また、短時間ではあるが、開錠している時がある。その時は、入居者さんへの気配り、目配りを十分に行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室への訪問時は声をかけるなどして入室する。常に入居者の所在や様子を把握し見守っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミ、裁縫道具、その他注意の必要な物は事務所で保管している。使用したいと申し出がある場合職員が見守りの中で使用している。使用後は事務所に保管し、安全を図っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	「事故防止マニュアル」を作成し、職員全員がミーティングで話し合い、事故防止に取り組んでいる。ヒヤリハット、インシデントを活用して再発防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成して、ミーティングで対応方法など話し合いを行っている。定期的な訓練は、十分ではない。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	関係機関の指導を受け、防火訓練、避難誘導の方法を学び、定期的に行っている。	○	運営推進会議を通して地域の人々の協力を得られるよう働きかけたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	体調変化や下肢筋力低下により、転倒のおそれがある場合など家族に連絡し、説明を行い了解を得ている。職員は、カンファレンスなどで話し合い予防に努めている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルサインチェックを行い、血圧、体温、脈拍、顔色などの変化があれば医師に連絡、相談し、指示を受けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服一覧表をカルテに入れ、薬の目的、用法、副作用について把握できるようにしている。内服の確認と状態の確認をしっかりと行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便のチェックを行い、排便の状態を把握している。繊維の多い食事や水分補給に努め、便秘予防を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っている。できない人は、介助を行う。一人ひとりの力量に合わせた支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成している。困った時には常に相談、指示を受ける体制ができています。食事摂取量は、毎食後記録して摂取量の把握に努めている。入浴後や外出後には水分補給を行い、水分の大切さを職員全員が周知している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	母体の医療機関と連携を密にし、感染予防の対応をしている。インフルエンザの予防接種は入居者、職員全員が行っている。ノロウイルスなどの緊急時の感染対策も医療機関で会を開き対応している。訪問者の手洗い、うがいは協力をお願いしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、新鮮で安全な食材を確保している。台所や調理器具は、毎日消毒し、担当者が衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、植木や季節の色とりどりの花を配置して、近隣の人にも楽しんでいただけるよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	寒い季節には日射しを少しでも多く取り入れ、暑くなると強い光を遮るロールカーテンを配置し、利用者さんが自ら調節している。また、風鈴や季節の花を置き季節感を出している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーを設け、そこには掘りごたつを置いている。座布団を敷き、足を投げ出したり、横になったりしてくつろげる空間がある。また、気の合った人達と過ごせるソファでは、ゆったりとできる場所がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で作った飾り物をベッドサイドに並べたり、壁に掛けている。家族の写真や思い出の写真を棚に飾っている。小さい鏡台や衣装ケースなど持って来ている人もいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日窓を開け、空気の入替えを行い、気になる臭いは、消臭スプレーで対応している。室内には温度計を設置し、温度管理に努めている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーでホールや廊下に手すりをつけ、安全に歩行できるようにしている。床はクッションフロアになっている。浴室に手すりをつけ直したり、滑り止めやシャワーチェアを購入して安全を確保している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々に応じて、分かりやすい目印や飾りを工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	気候の良い時期には、テラスでティータイムや外気浴をして楽しんでいる。建物の外には家庭菜園をして収穫を待ち望んでいる。	○	テラスでのティータイム、近隣のボードウォークや公園への散歩の機会を増やしたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎年、地域の文化祭に貼り絵、習字、短歌などを出展しています。一年間かけての作品づくりです。できる限り続けていこうと考えています。一人ひとりが楽しみを見つけ、安心した生活ができるよう状態に応じたケアを行っていきたいと思います。開設五年目に入り、入居者さんも重度化してきています。医療が必要となるまで苑での生活を楽しんでいただきたいと思います。ターミナルケアについても職員全員で話し合いを行い、理解を得て終末期の利用者の支援を行っていきたいと思います。